

「逸器」に 「三方良し」の想いを込めて

株式会社 三方良志 代表取締役 荻巣 幹男さん

岐阜市内にあるマンションに事務所を構える、株式会社三方良志。代表者は荻巣幹男さん。大手流通企業を2016年9月に定年退職後、意を決し起業。在職中、キッチン用品全般を扱う業務を長らく担当していた際に培ったノウハウを活かし、「うつわコーディネーター」として飲食店を中心に食器や厨房用品のコンサルティング・セールスをする会社を立ち上げました。

うつわや食器に関する相談・提供、企画・製作はもちろん、依頼主が求めるものを作形にするためにメーカー・陶芸作家たちを結ぶ役割のほか、うつわ全般・各種調理・厨房用品の困りごと解決にも日々奔走しています。

起業を決意したきっかけは、長らく携わってきた「うつわ」への想いでした。「在職中、陶磁器メーカー・窯元、産地商者の方々と話をする機会が沢山ありました。接していくうちに、日本の陶磁器産業全体が、海外生産品の流入等により縮小の一途をたど

つて現状を感じるようになり、いつか何とか役に立ちたいとう気持ちが強くなっていました」

しかし、「想い」だけで起業するのは難しいと、商工会議所主催のセミナーなど、三つの創業塾でみっちり勉強することから始めました。中には少人数のゼミ形式の創業塾もありましたがすべてを修了し、自分を鍛えることが出来たと荻巣さんは言います。

病を乗り越えチャンスを掴む

2017年2月、「三方良志」を開業。60歳の出発でした。屋号には、近江商人の心得である、売り手と買い手がともに満足し、また社会貢献もできるのがよい商売であるという「三方良し」の想いが込められています。

しかし、順調には進みませんでした。

「電話や飛び込みで営業を続ける

も、肩書きなし、資金なし、全て一からの出発でしたので、4か月は売り上げゼロが続きました」

悪戦苦闘の日々を重ねるうちに、

とうとう心理的ストレスから3ヵ月の入院生活を余儀なくされました。

しかし、この入院期間が充電期間ともなり、その後の「人生観」が大きく

変わってきました。

「運命は、努力で変えられる、この命は生かされている」

そう思う心が強くなり、一人でも多くの方のために役に立てるよう打ち込んでいました。

そんな日々の努力の甲斐があり、2019年、荻巣さんに大きなチャンスが訪れました。

それは愛知県設楽町の「したらダメカレー」企画への参入でした。

愛知県設楽町では、2026年度の完成を目指してダメ建設が進められており、町では建設段階から水源

のまち設楽町の周知と、地域振興を目的に「したらダメカレー」が考案されました。

町内の飲食店7事業所にて「したらダメカレー」を共通の器で提供することとなり、製作先を探していたところ、三つの創業塾で出来た横のつながりの「ご縁」から、荻巣さんに「オリジナルカレー皿」の開発、製作の白羽の矢が立てられたのです。

「うつわコーディネーター」としてのプロデュースSPA(商品の企画から製造、物流、プロモーション、販売までを一貫して行う小売業態)の第一号商品の製作がはじまりました。

この企画の「したらダメカレー」には、設楽町特産の食材の使用、ダメ周辺や設楽町の風景をイメージさせるトッピングなど、店舗ごとにさまざま工夫がされることとなっていました。例えば、地元の特産であるトマトやジビエ、鮎等を使用。設楽町のランドマークである岩古谷山や、

ダム湖に架かる橋梁などが表現される等々。そんな多種多彩なカレーに統一したイメージを施すための「うつわ」には、大きな期待がかかりました。

「作りあげるまではまさに苦労の連続でした。ご飯とカレールーの中仕切りを陶磁器にて製作したいとの要望を受け、頂いたのが、「設楽ダメ」の設計図でした。オリジナルデザインを図るまでに何度も修正をしました。そしてそのオリジナルデザインをもとに設計図を描き『ダメカレー堤』

「作りあげるまではまさに苦労の連続でした。ご飯とカレールーの中仕切りを陶磁器にて製作したいとの要望を受け、頂いたのが、「設楽ダメ」の設計図でした。オリジナルデザインを図るまでに何度も修正をしました。そしてそのオリジナルデザインをもとに設計図を描き『ダメカレー堤

」を作成。石膏型制作をしてイメージを固めていき、『見本型』が出来上がりました

この見本型を基に作られた「ダメ堤体模型」とオリジナルの「皿」がセットとなり、待望の「カレー皿」が完成。

4か月の時間を要しました。そして12月、ついにこの器を使つた「したらダメカレー」が、設楽町内7事業所において提供されることになりました。

そんな懸命な取り組みの成果が実現され、来店客や町内での評判は上々。ダメカレー皿に始まったプロデュースは、ボスター・やのぼり、リーフレットなど、依頼内容は幅広く膨らみました。

売上も大きく伸びすごさができ、起業から3年を経て、「うつわコーディネーター」として確かな自信へと繋がっていきました。

さらにこのダメカレー皿を手がけたことで繋がった設楽町のカレー販売事業所から、トップピングに使用する町のキャラクターの抜型が欲しいけれどお願いできるか、また喫茶室の椅子の貼り換えを頼んでいいかななどといったうつわを離れた困りごとの相談まで飛び込んでくるようになりました。これは嬉しい反響でした。

荻巣さんの人柄や仕事ぶりが実を結び始めたのです。

「こんなお声がけをいただけるほ

少しずつ見えてきた方向性

「やっとスタートラインに立った感覚ですが、これからが正念場だと思います」

荻巣さんはこの成功をきっかけに、

SPに注力する体制づくりを目指しています。

また、自ら開発した商品を「逸器」と名付け、この「逸器」の良さをどの



For Sweet Baby 12ヶ月★時の歳時物語

「今後は「うつわコーディネーター」、そして「マーケティングコーディネーター」、プロデューサー」として、更にお客様の期待に応えていきたいです」

そのため、これまで以上に知識習得、人脈構築に努め、引き出しを増やしていくと力強く語ります。

優しい笑顔に、強い志が重なります。荻巣さんの挑戦は、まだまだ続きます。

株式会社 三方良志

所在地 〒502-0023 岐阜市城前町1丁目14番地 城前レジデンス103号

受付時間 平日9:00~18:00

TEL/FAX 058-231-0981

URL http://3pou.nagoya



荻巣さんがプロデュースした「したらダメカレー」関連アイテム

どう信頼していただけたのだと、感謝でいっぱいです。多くの皆様から「ご縁」をいただき、そのお陰でここまでやることが出来ました。

早くイラストから抜型を作成してくれる業者さんを手配し、椅子をきれいに張り替え、全て要望に沿って完成させました。

荻巣さんは「うつわコーディネーター」を厨房の悩み等すべてサポートする「お困り」と解決業だと意識し、お客様に寄り添い、気持ちや想いを細かく汲み取り丁寧に応えていきます。

「やっとスタートラインに立った感覚ですが、これからが正念場だと思います」

荻巣さんはこの成功をきっかけに、

SPに注力する体制づくりを目指しています。

また、自ら開発した商品を「逸器」と名付け、この「逸器」の良さをどの

